

KWANSEI GAKUIN
SCHOOL OF THEOLOGY

☾ 関西学院大学

神学部報

No.118 2021.11

秋学期を迎えて

コロナ禍のなか四度目の学期を迎えています。ワクチン接種が進んだためか、感染者数は10月下旬現在は落ち着いているようです。神学部では対面授業を増やし、できるだけ普段のキャンパスに戻したいと思います。また今年度は新しくチャペルコンサートを行っています。円熟したプロ、学生たちと同年代の音大生などによるフルート、バイオリン、コントラバス、オーボエの演奏に浸るひと時を楽しんでもらえたらと願います。(神学部長 土井 健司)



発行 関西学院大学神学部広報委員会
〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155
電話 (0798) 54-6200 FAX (0798) 51-0936
https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/

夏期実習報告 2021

夏期派遣神学生

■ 阪口 選 ^{えらぶ} 【大学院】キリスト教伝道者コース

<期間>7月29日(木)～9月5日(日)

<場所>日本基督教団 ^{せんだい} 川内教会



私は7月29日(木)～9月5日(日)の5週間強、鹿児島県にある川内教会で実習をさせていただきました。実習期間中は日下部遣志先生、戸田奈都子先生の指導のもと平日は付帯施設である、のぞみ幼稚園で、土日は川内教会で先生方がどのように働いておられるかを学ばせていただきました。川内教会の礼拝堂は、平日は幼稚園の一教室として使われています。毎週末、この教室を礼拝堂として使えるように模様替えをし、日曜日に礼拝が終われば、また教室として使えるように礼拝用の椅子を全て片付け、幼稚園の子どもたちが座る椅子や机と入れ替えます。この作業は決して楽な作業ではありません。しかしこの作業を教会員の方々や、礼拝に参加された幼稚園の先生方が、楽しそうにおしゃべりしながらなさっていました。この姿は教会と幼稚園の関係を象徴しているようで、私にはとても印象的でした。紙面の関係上詳しくは書けませんが、川内教会とのぞみ幼稚園には日常的につながるためのさまざまな工夫がなされ、長年続けられた努力によって今の関係があるのだと感じました。

今回の実習で改めて、牧師は人と人をつなぐ仕事であると学びました。神様と人、教会と幼稚園、教会と地域、それぞれのつながりが、そこに集う人々に力を与えてくれます。このような学びをコロナ禍の中であっても与えてくださったすべての方に心より感謝申し上げます。

今回の実習で改めて、牧師は人と人をつなぐ仕事であると学びました。神様と人、教会と幼稚園、教会と地域、それぞれのつながりが、そこに集う人々に力を与えてくれます。このような学びをコロナ禍の中であっても与えてくださったすべての方に心より感謝申し上げます。

臨床牧会実習

■ 韓 宣榮 ^{はん そによん} 【大学院】キリスト教伝道者コース

<事前講義>8月22日(日) 於 上ヶ原キャンパス

<実 習>8月23日(月)～8月28日(土) 於 大阪暁明館病院

<事後講義>8月30日(月)/9月3日(金) 於 上ヶ原キャンパス



この度私は、夏季休暇の間に8月22日(日)～9月3日(金)の日程で行われた臨床牧会実習を受講しました。中道基夫教授の指導の下、スーパーバイザーとして臨床心理士の仲倉高広先生と、実習場所の大阪暁明館病院チャプレンの岸本光子先生にご指導いただき、多様な分野からさまざまな学びを受けることができました。

本実習では、日程の大半が実際の病院の中で行われ、実際に入院されている患者さんとの対話も含まれています。COVID-19の感染が拡大した状況の中では、開講自体可能なのかと心配されましたが、参加者も病院側も万全の防疫体制を整えることで無事行われました。防疫配慮のため、マスクによる飛沫対策やこまめな手指消毒を徹底しながら、患者さんとの面談の際には、病床のある部屋とは別の、離れた部屋からパソコン等を用いる形でのオンライン面談となりました。病室で同じ空気を感じ取ることができないオンライン面談には、初め戸惑い、学校のオンライン講義とはまた違った難しさがありました。しかしその中でも、患者さんから語りかけられる言葉のひとつひとつを真剣に受け止めて、一人の魂に向き合うことを教えていただきました。そして同時に、自分自身と向き合い、より深く学ぶことができました。牧会者としての自分に向き合う貴重な場をくださった、先生方と患者さん、お世話になった病院のすべての方に心より感謝いたします。

留学報告

キリスト教思想・文化コース4年 山本 あすか

私は、2020年の9月から2021年の6月までの9ヶ月間、ポルトガルに留学しました。コロナ禍で留学を決心することはとても難しい判断でしたが、結果的には無事に行って帰って来ることができ、また、貴重な経験や友人を得ることができて本当に良かったと思っています。留学を迷っている時に、私の背中を押してくれた友人や先生方、家族には感謝の気持ちで一杯です。現地では、外国人のためのポルトガル語コースを、世界各国から来た、年齢もさまざまな学生たちと共に受講しました。ロックダウンの時期以外は対面式で授業が行われていましたし、休みの日には友人と国内を沢山旅行することができました。色々な国の方たちと初めて友人になり、彼らから知らなかったことを沢山教えてもらうと同時に、私自身も日本の文化を彼らに紹介しました。時にはちょっとした口論になることもありましたが、それも今となっては大切な思い出です。

日本では、ポルトガルの良さはあまり知られていないように感じます。ポルトガルは、ヨーロッパの中でも物価が安く、治安も良いです。また英語も通じやすく、歴史的な観光スポットも多く、色鮮やかな写真写りの良い場所も沢山あります。この文章を読んだ方が少しでもポルトガルに興味を持っていただけたら幸いです。



ポルトの街並み

Mission in Dialogue A 報告

キリスト教伝道者コース4年 朱 榮讚^{じゅ よんちやん}キリスト教思想・文化コース2年 中村 玲那^{れいな}

今回のMission in Dialogue Aは、7月30日(金)～8月6日(金)に開催され神学部の学生9名が参加しました。最初の2日間は、韓国の歴史とその神学を学び、在日大韓基督教会大阪北部教会と大阪教会を訪問し在日コリアンについてのお話を聞きました。その後の3日間は、Zoomをもちいて韓国の監理教神学大学の学生(10名)と共にコロナ禍における宣教というテーマについて学び、お互いの教会の現状と問題点について話し合い、その解決のために自分たちは何ができるのかをグループに分かれてディスカッションをおこないました。今回は韓国の学生たちと直接会うことができず残念でしたが、今回は実際に会い、共に様々な活動ができることを願っています。

本年度のMission in Dialogue Aはコロナ禍の影響により日本にて、講義や鶴橋でのフィールドワークを通して韓国のキリスト教や在日大韓基督教会について学びました。また、韓国の監理教神学大学の先生や学生の方とZoomを通じて交流し、コロナ禍における両国の教会の現状や課題を共有し、それらをどのように解決していくかについて考えを出し合いました。互いに意見を出し合っていく中で、斬新なアイデアが次々とあがり、非常に勉強になりました。特に印象に残ったことは、「Zoomなどでいつも通りの礼拝を配信するのではなく、インターネットのソーシャルネットワークのアプリを使って、バーチャルで人々が集い、ともに礼拝を行うことで、人々の交流を行うことができ、新鮮さを味わうことができるのではないか」という案です。実際に韓国を訪れ文化に触れることができなかつたのは残念でしたが、様々な人に出会い、意見を交え、両国のキリスト教についても理解が深まり、視野を広げることができました。

2021年度の神学教育

副学部長(教務担当) 小田部 進一 教授^{こたべ じんいち}

2021年度春学期の授業は、1年ぶりに全面的な対面授業として始まりました。しかし、大学の期待に反してCOVID-19の感染が拡大したため、4月15日以降、大学の活動制限レベルが「レベル4(重点的制限)」に引き上げられ、感染対策が強化されました。教室の収容定員は2分の1に引き下げられ、再び対面授業とオンライン授業とに分けて授業を開講することになり、オンラインのみで開講される授業も少なくありませんでした。それに対して、秋学期は、収容定員の制限に変わりはありませんが、教室の調整等により、ほとんどすべての授業を対面授業として開講できる体制をつくることができました。

対面授業であっても、学生は基礎疾患等の理由からオンラインで受講することが可能です。その場合には、対面とオンライン授業が同時に提供される、いわゆるハイブリッド型で授業が実施されます。教員には、機材の準備以外に、例えば小テストの際、対面とオンラインの学生それぞれに必要な対応をするなど、通常以上の負荷がかかる状況が続いています。

オンラインを使った技術は便利ではありますが万

能ではなく、教育効果についても未知数な部分が多くあります。また、学生たちからは、オンラインの場合、通学しなくて済むので安心で楽だったという意見がある一方で、対面では、授業と授業の間の時間(隙間)に他の受講生や教員と様々な意見を交わせること、そして、液晶画面やSNSの規格に縛られずに友達と自由に交流ができることなどが、学びと学生生活のモチベーションにつながっているということも聞いています。感染防止策を講じながらも、充実した授業と学生生活に必要な環境を提供するための試行錯誤が続いています。毎学期、新しい状況が続いていますが、その中でも、ひとりひとりを大切にする神学部の授業を継続していきますので、今後の歩みにもご理解とご支援をお願いいたします。



アクリル板で仕切られマスクを着用して行われるゼミの様子

新入生の声

キリスト教伝道者コース1年 くさかべ はるき 日下部 春希



神学部といっても、多くの学生はノンクリスチャンです。授業はキリスト教を知らないことを前提に話が進むため、聖書や信仰、キリスト教の考え方を先生方がノンクリスチャンの学生に言語化して伝えています。教会にはもちろんキリスト教を知らない方も来られますから、どう語りかければいいのか、大変興味深く聞いています。ある意味とても実践的であると私は思いますし、自分の中で大きな実りになると感じています。神が道を示してくださるまでの準備の時として、世界を知り、人と出会い、御心に適った学びが出来るように日々を大切に歩んでまいります。

キリスト教思想・文化コース1年 はまだ こうよう 濱田 紘瑛



ここ関西学院大学神学部での学びは、単なる宗教としての学問ではありません。愛をその根本に置く「キリスト教」を媒体として、現代社会における我々一人ひとりの心のあり方やものの捉え方を深める場です。COVID-19の蔓延によって、今まで以上に混乱へと陥るこの世界。だからこそ一人ひとりの行動とその行動を決定する心の在り方が、今後ますます重要になってくるように感じます。愛をもって行動することそれ自体が困難になっていくこの世界において、自由に愛を行う素晴らしさに気づかせてくれたのが関学神学部です。神学部で学びを深めながら、行動そのものを愛のメッセージとしてこの世界に発信していけたらと思います。

学生の声 神学部で学ぶ



キリスト教思想・文化コース4年 しゅ ぶんじん 朱 榮眞

Q1. 神学部に入學したきっかけは？

宣教師の父と共に韓国から日本に来ることになり、日本でのさまざまな経験の中で幼いころから関わってきたキリスト教、そして神学に自然と興味を持つようになりました。高校3年生の時、日本でキリスト教に関わりながら自分にできることはないのかと悩む中、聖書科(宗教科)の教員の存在と神学部の存在を知り、神学部に入學しました。

Q2. 現在神学部で興味を持って学んでいることは？

私が興味を持って学んでいることは新約聖書学とキリスト教教育に関することです。新約ゼミに属しており、十字架の恥と誇りに関する研究をしています。聖書科(宗教科)の教職課程を履修しており、教職科目の全般と神学部で開講されている「キリスト教教育A」も受講しています。また心理学とカウンセリングにも興味があり、昨年度に履修した文学部の「教育・学校心理学」と神学部の「牧会カウンセリング」では子どもへの理解、言葉を通した人への理解を深めることができました。

Q3. 将来の夢や目標は何ですか？

将来目指しているものは聖書科(宗教科)の教員です。キリスト教と聖書を通してでしか学べないことを生徒に真摯に伝えたいです。生徒には、おおいに考えて感じてもらうことを通して、共に喜び、悲しむことができる人になってほしいです。キリスト教と生徒の間に立つ存在として信頼される人になりたいと思っています。

Q4. 神学部生、神学部入学を目指している受験生に対してメッセージをお願いします。

神学部生にお伝えしたいことは、さまざまなことに興味を持ち、小さな疑問であつても素通りしないということです。多くの知る喜びを感じられるように疑問に正面からぶつかってみてほしいなと思います。しっかりと学びを支えてくださる先生方と仲間がいますから！そして神学部入学を目指している受験生にはぜひ神学部での学びを楽しみに頑張してほしいです。きっと充実した特別な学びができると思います。

ユースキャンプ報告

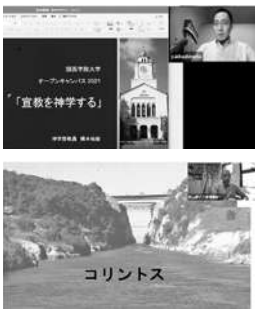
橋本 祐樹 准教授



第38回関学ユースキャンプonキャンパス & オンラインが8月7日(土)に関西学院大学神学部を会場に実施されました。昨年度はCOVID-19拡大のため中止されたので、2年ぶりの開催となります。尚もCOVID-19の広がりの収まらない中であり、対面とZoomを使ったオンライン併用というこれまでにない形態を取り、宿泊を伴わない1日だけの実施でしたが、参加者10名、神学部生1名とスタッフ7名で総数18名となりました。講師として^{しおいかり}汐碓直美先生(奈良教会牧師)をお迎えしました。

キャンプ主題「傷を抱えて、生きていく～そのうち癒やされるから、大丈夫～」のもと、プログラムは折りと自己紹介ゲームから始まり、講演へと進みました。傷つき、癒やされてきた講師自身の経験に裏打ちされたお話に、多くの考えるきっかけを与えられたように思います。昼食を終えた後には、スタッフがZoom接続したタブレットを持って、付属カメラで学内と学部内を映しながらキャンパスツアーを行いました。その後、講演の分かち合い、オープンキャンパス企画(当日実施されていた神学部の模擬講義とイベント)への合流、質疑応答へと続き、最後はチャペルでの閉会礼拝をもって終了しました。これまでにない形態でのキャンプでしたが、スタッフの事後の感想に出たように、進むにつれて不思議といつものユースキャンプ独自の雰囲気形成されていたように思います。

オープンキャンパス報告



2021年度関西学院大学オープンキャンパスが8月7日(土)～8日(日)に西宮上ヶ原キャンパスで開催されました。今年度も昨年度に引き続き、COVID-19拡大の影響によってイベントは全てオンラインでの実施となりました。期間中は、橋本祐樹准教授が「宣教を神学する」、浅野淳博教授が「古代地中海世界の旅:ギリシャとローマ編」と題し、キリスト教初心者にもわかりやすい模擬講義を実施したほか、神学部チャペルでは、土井健司神学部長が蓄音機を用いながら聖書の学びを深めるイベントも催しました。関学ユースキャンプの参加者も含め、のべ75名の高校生らが模擬講義等に参加しました。参加者のなかにはキリスト教について初めて学ぶ高校生も多く、教員らの講義にみな熱心に聞き入っていました。



蓄音機を用いたイベントの様子

MSセミナー2020・2021報告

MSセミナー企画・運営委員長 土井 健司 教授

この夏、8月24日(火)～25日(水)に「MSセミナー2020・2021」を無事に開催することができました。昨年はコロナ禍のため休会を強いられたのですが、今年は実施のため知恵を出し合い、Zoomを使ったオンライン併用で行いました。なお昨年2020年度の対象者との合同で、5年目教師、10年目教師合わせて10名の参加がありました。ただ8名がオンライン参加となり、対面参加は近隣教会の2名に止まりました。会場は、神戸栄光教会の地下集会室をお借りし、事前にオンライン・セッティングを行い、おかげでセミナー時にオンライン上のトラブルはなく、上手く運営できたものと思います。

プログラムとしては、まず神学部の水野隆一教授(旧約聖書学)から「ヘブライ語聖書を説教する」、神学部客員講師の島田恒先生から「教会マネジメント—明日に必要な知恵^{かある}」のご講演がありました。教会現場としては稲垣馨先生から「生涯一求道者」、また宮岡真紀子先生(北千里教会牧師)から「『北千里教会での歩み』より」と題して、それぞれのご経験からお話をいただきました。稲垣先生はとくに諸教会でのご苦勞を話してくださいました。期間中4回の礼拝を実施し、おもにオンライン参加者が説教を担当し、対面参加者から選んで司会を担当しました。いつもの半分のプログラムでしたが、充実したよい研修の時となったものと思います。



秋季学術講演会 科学革命の英雄たちとキリスト教

— ガリレオ、ニュートンを中心に — 芦名 定道 教授

2021年10月12日 於:関西学院会館 レセプションホール

「キリスト教と自然科学」の関係理解には、19世紀後半に一般にも広まった「宗教と科学の対立図式」が現在もさまざまな影響を及ぼし続けている。その際に、しばしば焦点となるのがガリレオ裁判である。本講演では、ガリレオ裁判にいたる長い前史(聖書の知恵文学から、12世紀ルネサンスと中世科学まで)を確認し、コペルニクスの地動説の論点(3つのレベル)を整理した上で、最近の研究を参照しつつ、ガリレオ裁判の真相に迫った。結論は、ガリレオ裁判を「宗教と科学の対立図式」の実例と解するに



は無理があるということである。そのために示された論拠は、従来のカトリック教会が仮説としての地動説を容

認できたこと、そして同時代のプロテスタント(ルター派、改革派など)において地動説は否定されなかったことであるが、そもそも



科学革命の英雄たちは自らの科学研究を信仰と緊密に結びつけていたのである(神の栄光を讃美する科学研究)。ガリレオへの無期刑判決が避けられなかった理由については、宗教戦争(30年戦争)下におけるカトリック教会には、プロテスタント的な聖書の新解釈に対して伝統的解釈を防衛することが強く求められた点を考慮する必要がある。さらに講演ではニュートンが自然科学者にとどまらず、神学者という顔をももつことを指摘し、現代神学における問題状況にも言及した。

from the Classroom

旧約聖書入門I

水野 隆一 教授



2020年度春学期は、COVID-19の影響で授業の大半がオンラインになりました。見よう見まねで授業動画を撮り、アップロードする経験をする中で、対面授業が行われるようになったら、試してみたいと思うようになったことがあります。それは、「反転授業」と呼ばれる形式を、とくに、導入の授業に取り入れてみたいという思いでした。

ヘブライ語聖書(旧約聖書)分野の導入の授業としては、「旧約聖書入門I」と「旧約聖書時代史」がありますが、どちらも、取り扱うべき内容が多いので、講義においてどれくらいの内容を取り上げるか選択が難しく、また、テキストそのものをじっくり読んだり、研究方法を体験したりすることは最低限に絞らざるを得ないという悩みがありました。反転授業では、これらの悩みの少なくとも一部は解決できるのではないかと期待したのです。

そこで、次のような方法を取ることにしました。まず、従来の講義に当たる部分を、前もって動画で視聴してもらいます。講義の前提となる知識は、指定された教科書からあらかじめ読むよう指示してあります。その上で、動画の最後で課題を示します。課題は、例えば、旧約聖書入門Iでは『ギルガメシュ叙事詩』に創世記6-9章と類似する表現を見つけたり、両者の違いについて考察する、「旧約聖書時代史」では申命記や詩編などに多神教的表現を見つけるなどです。

授業時間では、動画や教科書に対する質問に回答した後、課題について発表してもらい、議論をします。多くの学生が発言し、その中には斬新な意見もあります。昨年秋学期から始めたばかりなので、まだまだ手探りですが、履修者が主体的に学ぶ授業を、一緒に作り上げていきたいと願っています。

2022年度 神学部・神学研究科入学試験ご案内

■神学部 キリスト教伝道者コース * キリスト教思想・文化コース

		出願期間	試験日	試験科目
一般入試	全学日程	<インターネット出願> 2022年 1月 4日(火)～1月17日(月) ～23時まで	2月 1日(火) 2月 2日(水)	英語 国語 選択 (数学・日本史・世界史・地理)
	学部個別日程	<出願書類郵送> 2022年 1月 4日(火)～1月17日(月) [消印有効]	2月 6日(日)	英語 国語 選択 (数学・日本史・世界史)
	共通テスト併用/ 英数日程		2月 5日(土)	英語
大学入学共通テストを利用する入試	1月出願	<インターネット出願> 2022年 1月 4日(火)～1月14日(金) ～23時まで <出願書類郵送> 2022年 1月 4日(火)～1月14日(金) [消印有効]	【大学入学共通 テスト試験日】 1月15日(土) 1月16日(日)	7科目型、5科目型、 3科目型、 英語資格・検定試験活用型
	3月出願	<インターネット出願> 2022年 2月24日(木)～3月10日(木) ～15時まで <出願書類郵送> 2022年 2月24日(木)～3月10日(木) [消印有効]		4科目型

*バプテスマ(洗礼)を受けている必要があります。

■神学研究科

<博士課程前期課程>

キリスト教伝道者コース * キリスト教思想・文化コース

		出願期間	試験日	試験科目
第2次	一般	2022年 2月 7日(月)	2月25日(金)	英語 論文 面接
	社会人	2月 7日(月)		論文 面接
	外国人留学生	2月14日(月)		論文 面接

*バプテスマ(洗礼)を受けている必要があります。

<博士課程後期課程>

		出願期間	試験日	試験科目
後期課程	一般	2022年 2月 7日(月)	2月25日(金)	英語 独語 論文 口頭試問
	外国人留学生	2月14日(月)	2月26日(土)	外国語(英語または独語) 論文 口頭試問

各入試情報詳細については以下の
WEBサイトからご確認ください。
<https://www.kwansei.ac.jp/admissions/>

お問い合わせ先

■関西学院大学神学部
Tel.0798-54-6200

■関西学院大学入学センター
Tel.0798-54-6135

追 悼

野田 和人 牧師 かずひと



神戸栄光教会の主任担任教師で、神学部後援会の副会長・募金委員長を務められた野田和人牧師が2021年10月11日(月)に66歳で天に召されました。野田先生は1981年から1996年までブラジル・サンパウロでそろばん教師、学習塾講師として務められていましたが、献身の志をもって2002年に関西学院大学大学院神学研究科に入学されました。2005年に関西学院大学大学院神学研究科博士課程前期課程を修了後、いさほや 諫早教会(九州教区・長崎地区)、2013年4月より神戸栄光教会で主任担任教師を務められました。明るく温かいお人柄で多くの人に慕われ、後援会を通じて神学部をご支援くださっていました。ご家族と教会員の方々に主の慰めがありますようお祈りいたします。(東 あづま よしみ 准教授)



Azuma, Yoshimi. "The Resurrection Message and the Literary Shape of John 20-21." Pages 65-81 in *Narrative Mode and Theological Claim in Johannine Literature: Essays in Honor of Gail R. O'Day*. Edited by Lynn R. Huber, Susan E. Hysten, and William M. Wright IV. Biblical Scholarship in North America 30. (Atlanta: SBL Press, 2021)



エモリー大学で長く教え、ウェイク・フォレスト大学の神学部長を務めたゲイル・オデイ(2018年に死去)の記念論文集です。東の論文は、ヨハネ福音書の神学的主張はその物語形態と分ち難く結びつくというオデイの主張が、ヨハネ20-21章の復活物語においても当てはまることを議論しました。イエスの復活と昇天は「省略」という技法を用いて語られていること、語り手のコメントは媒体としての物語の役割を強調すること、21章における6章の反響は、受肉のイエスと復活のイエスの連続性を示すことを指摘しました。

ティム・インゴルド 著

『生きていくこと 動く、知る、記述する』柳澤 田実 共訳

(左右社、2021年11月)



ティム・インゴルドはスコットランド、アバディーン大学の社会人類学者です。彼が扱う対象は広く、アボリジニアや北極圏の狩猟民の文化、アートや建築も含まれます。このような多様な題材を扱いつつインゴルドが主張するのは、私たちの学問や技術が、記述や記録の方法次第で、絶えず運動し・生きていく世界を捉え損なうということです。例えば中世の学僧たちは、聖書を読むことを散歩に例え、教会の建築を瞑想の道行として捉えていました。生きていく世界を対象化・分析することによってこぼれ落ちてしまうものがあることに、インゴルドは気づかせてくれます。

関西学院大学神学部 第23回 キリスト教教育研究集会のご案内



関西学院大学神学部では、かねてから学校教育におけるキリスト教主義教育の重要性を認識して、その中心的役割を担う聖書科教師の育成に努めて参りました。この研究集会は、共に学び合う中から、今日キリスト教主義学校が直面している様々な課題を担っていく力を養い、また、日本におけるキリスト教主義教育の体系を共同で作り上げていくことを目標としています。今回の研究集会は、COVID-19拡大の状況に鑑み、Zoom参加と対面参加のハイブリットでの、1日のみの開催とし、プログラムを大幅に短縮しています。キリスト教主義教育に携わる方々、キリスト教主義教育に関心のある多くの方々の参加を願います。ご案内申し上げます。

お問い合わせは12月20日(月)16:00まで受け付けております。

神学部補佐室 Tel.0798-54-6207

- ◆テーマ ---- 「人間の尊厳」の神学的考古学 -その最古層にあるもの
- ◆講師 ----- 土井 健司 氏 (関西学院大学神学部長)
- ◆現状報告 -- 澁谷 実季 氏 (日本基督教団毛呂教会担任教師)
- ◆とき ----- 2021年12月28日(火) 10:00~15:30

神学部情報をSNSで日々発信中!



神学部公式InstagramやFacebookでは、神学部動画やイベント情報を発信しています。この機会にぜひご登録ください!



【神学部Instagram】

⇒<https://www.instagram.com/kgtheologica/>



【神学部Facebook】

⇒<https://www.facebook.com/KGtheologica>

2021年度春学期(4月~9月)
神学部日誌

- 4/ 1 大学入学式
学部新入生履修指導
(入学者1年:キリスト教伝道者コース6名、キリスト教思想・文化コース23名、計29名
4年編入学:1名)
- 4/ 3 大学院入学式(入学者 前期課程5名 計5名)
- 4/ 8 春学期授業開始(学部・研究科)
始業礼拝「真理はあなたを自由にする」
(土井 健司 神学部長)
始業講演「宗教改革とペスト」(小田部 進一 教授)
- 4/21 GPA制度による成績優秀者顕彰礼拝・
山内奨学金授与礼拝
- 4/28 第439回神学研究会(東 よしみ 准教授)
- 5/26 第440回神学研究会『神學研究』第68号合評会
発題:上田 直宏 氏、評者:中道 基夫 教授
- 6/ 2 FD研修会(学部・研究科)
- 6/ 9 学術奨励基金各種奨学金授与礼拝
- 6/23 第441回神学研究会(水野 隆一 教授)
- 7/21 春学期授業終了(学部・研究科)
- 7/26~8/3 春学期定期試験
- 7/28 修士論文中間発表(大学院博士課程前期課程)
第442回神学研究会(芦名 定道 教授)
- 7/31 教育懇談会[オンライン開催]
- 8/7・8 オープンキャンパス
(※模擬講義及びイベントはオンライン開催)
イベント:「聖書とバツハと蓄音機」(土井 健司教授)
模擬講義:「宣教を神学する」(橋本 祐樹 准教授)
「古代地中海世界の旅:ギリシャとローマ編」
(浅野 淳博 教授)
- 8/ 7 第38回関学ユースキャンプ(※1日のみの実施)
主題:「傷を抱えて、生きていく
~そのうち癒やされるから、大丈夫~」
講師:汐碓 直美 氏(奈良教会牧師)
- 8/10~9/19 夏季休業
- 9/ 7 大学院入試博士課程前期課程(一次)実施日
- 9/16 春学期大学卒業式・大学院学位記授与式
- 9/21 秋学期授業開始(学部・研究科)

関西学院大学神学部 第56回 神学セミナーのご案内



パンデミックも含め、毎年のように大規模な災害が起こる中、キリスト教はどのような応答ができるのでしょうか。今、そしてこれからの、災害に対するキリスト教のあり方をご一緒に考えてみたいと思います。

第56回 関西学院大学神学部神学セミナー

- ◆主題 --- 「災害とキリスト教」
- ◆日時 --- 2022年2月21日(月)9:30~17:00
- ◆場所 --- 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスF号館(対面・オンライン併用)
- 主題講演:金菱 清 氏(関西学院大学社会学部教授)
(『靈性の震災学』(新曜社、2016)、『震災学入門』
〔ちくま新書、2016〕ほか著書多数)
- 神学講演:芦名 定道(関西学院大学神学部教授)
小田部 進一(関西学院大学神学部教授)
- 現場報告:森分 望 氏(日本基督教団三津教会牧師)
日下部 道志 氏(日本基督教団川内教会牧師)